

因幡の戦国武将ゆかりの地を巡る

鶯尾城ウォーク

鶯尾城の概要

鳥取平野の南西、鳥取市玉津集落の西側にそびえる標高 268m の山頂にある山城で、眼下に平野を一望できる要衝に築かれています。

城はやせ尾根地形を活かしながら曲輪を造成しています。南西から北東に延びる尾根の頂部に比較的広い曲輪を設け、それぞれの曲輪の間に小規模な曲輪が造られています。

主郭の南から東と西に延びる枝尾根には堀切を設けられこのうち、東の枝尾根にある堀切は東端が豎堀に連続しています。

広い曲輪群がある尾根から東に延びる尾根上には小規模な曲輪群がみられ、東側への備えを重視した構造をしています。

因幡の山城は小規模で単純な縄張りが特徴ですが、戦国期には鶯尾城のような大規模な山城が出現します。

鶯尾城に関わる人々

『因幡志』には因幡の有力国人である武田高信の持城であったとあります。

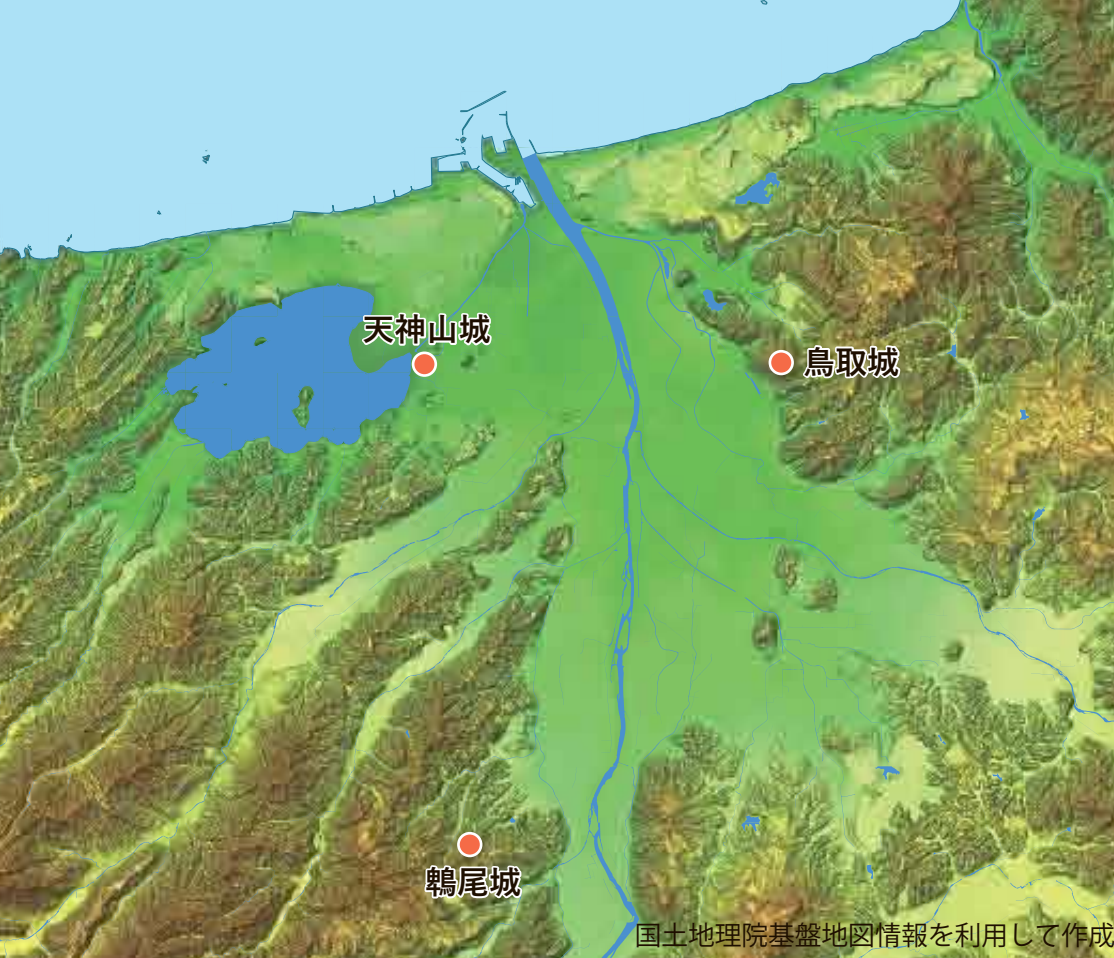
因幡守護の旧臣で鳥取城番だった武田高信は、中国地方の覇者となった毛利氏の支援で因幡から但馬勢を排除し、鳥取城で約10年にわたり因幡を治めましたが、天正元年の尼子再興戦で山中鹿之介や山名豊国に鳥取城を追われ、鶯尾城に退去したと『陰徳太平記』にあります。

天正3年には毛利方で山陰経略を担当する吉川元春が伯耆の山田重直に鶯尾城の在番を命じていることが一次史料に出てきます。

(山名豊国が武田高信を鶯尾城から追い出して占拠したため、毛利氏が豊国から鶯尾城を返還させ、重直に委ねたものと考えられます。)

年次は記されていませんが、(鶯尾城に戻っていた)武田高信は山名豊国らに鶯尾城で襲撃され、討ち果たされたと『渡辺助允覚書』にあります。

以上のように、鶯尾城は、武田氏の持城でしたが、毛利氏の影響も考えられます。



国土地理院基盤地図情報を利用して作成

鶯尾城の位置



麓からみた鶯尾城



鶯尾城上空から撮影した風景



鳥取県埋蔵文化財センター (0857) 27-6711

鳥取県鳥取市国府町宮下 1260

maibuncenter@pref.tottori.lg.jp



主郭

主郭は他の曲輪に比べて平らに整えられています。

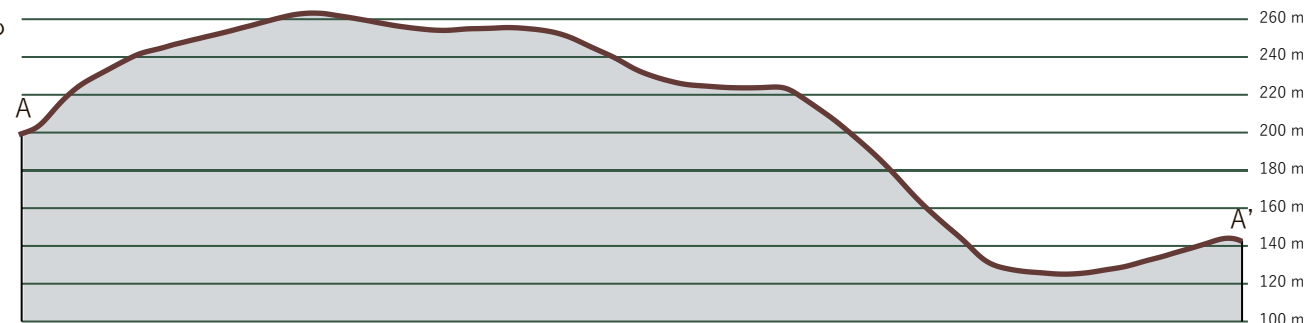
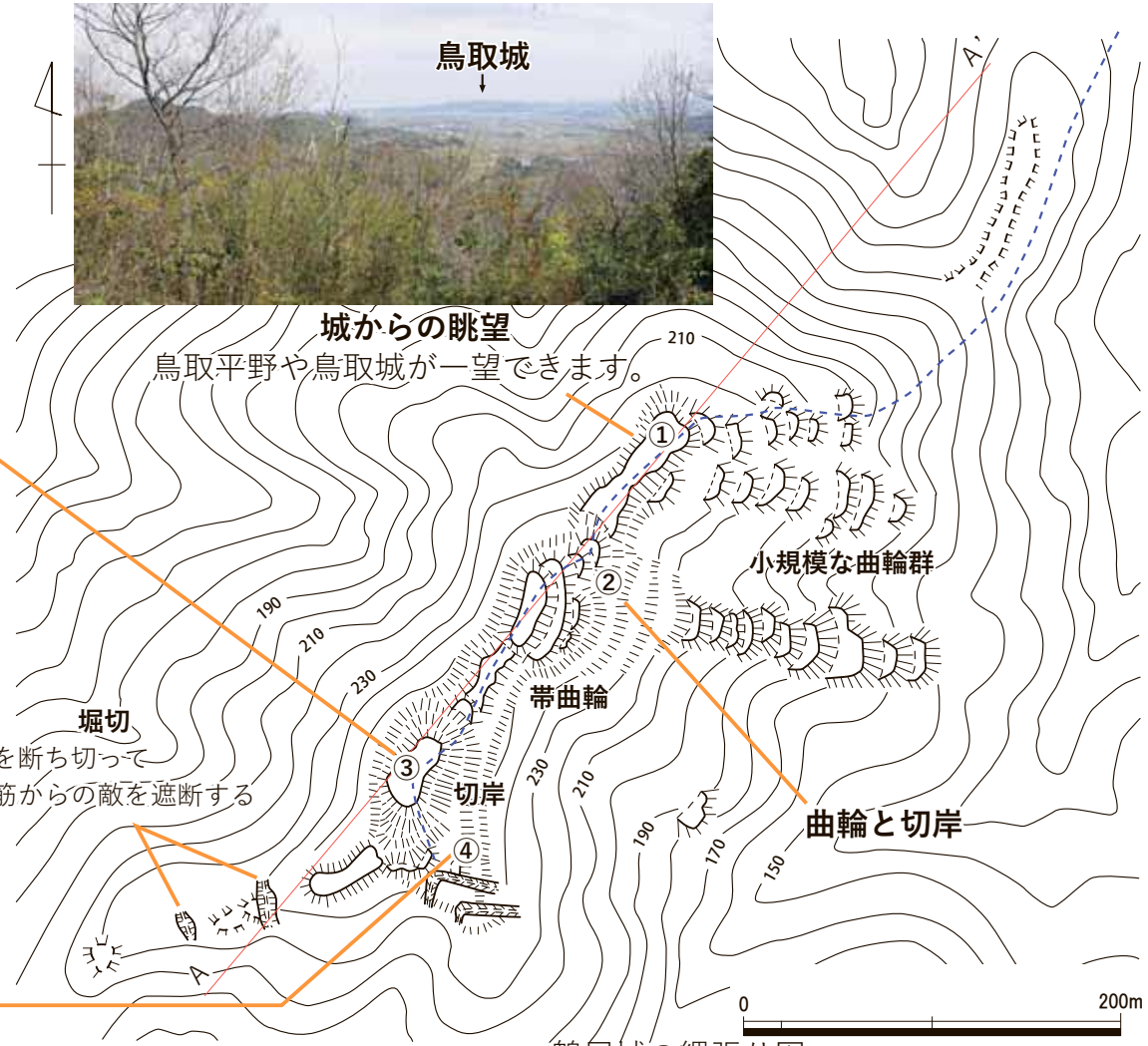


堀切から連続する豎堀

東側斜面の豎堀は堀切よりも深く掘られています。



鳥取城



鶴尾城周辺の地形断面図